

## 新聞メディアにおけるまちづくり報道のあり方に関する研究

代表 饗庭 伸 (東京都立大学工学研究科建築学専攻・助手)  
委員 中島直人 (東京大学工学系研究科都市工学専攻・助手)  
委員 真野洋介 (東京工業大学社会理工学研究科社会工学専攻・助教授)  
委員 米野史健 (国土技術政策総合研究所住宅研究部・研究官)  
委員 笠 真希 (早稲田大学芸術学校・客員講師)

### [研究報告要旨]

日本の都市の急速な成長の中で、新聞メディアの役割は相対的に小さくなり、都市開発やまちづくりにおいて、新聞メディアでどのような情報が出されるべきかという議論が少ない。本研究では、新聞メディアにおけるまちづくり報道の問題点を明らかにした。具体的には、まず、(1) 過去 15 年の国内紙のタイトル、記事における特定のキーワードを分析し、継続的な報道のされ方と、全国紙、ブロック紙、県紙の違いを明らかにした。次いで(2) 主要全国紙の過去 1 年分の紙面を分析し、記事の特徴の定量的分析と、主要なトピックの報道のされ方の分析、特集や連載記事の分析、図や表などの視覚的な補助手段の活用実態を明らかにした。分析で扱う記事の内容は、個別のまちづくり活動のほかに、まちづくりを取り巻く政策や諸制度に関する事項（都市計画法改正など）も対象とし、内容のレベルに応じて社説・政治経済面・社会面・地方面などを取り上げて分析を行った。次いで、(3)イギリス、アメリカ、ドイツ、オランダ、スペイン、韓国の各海外新聞を一定期間収集し、海外新聞メディアの実態調査を行った。それぞれの紙面を分析し、記事数・内容の分析と、視覚的な補助手段の利用実態を明らかにした。最後に (4) まちづくり事例のケーススタディとして、兵庫県神戸市野田北部地区、広島県福山市鞆の浦地区の二つの地域のまちづくりのケースをとりあげた。当事者、および新聞メディア関係者へのインタビュー調査を行い、それぞれの地区のまちづくりのプロセスと、関連する一連の報道の比較分析を行った。